

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	1070100944
法人名	医療法人 富士たちばなクリニック
事業所名	グループホーム あかしの里
所在地	群馬県前橋市日輪寺町東田350-2 (電話) 027-232-3500

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年1月24日

【情報提供票より】(20年 1月 8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 4月 16日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤 12人, 非常勤 12人, 常勤換算	5.59人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建て	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000~49,600 円	その他の経費(月額)	外来費(実費)
敷金	有 300,000円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	400 円	昼食 550 円
	夕食	600 円	おやつ 50 円
	1日 1,150円		

(4) 利用者の概要(1月 8日現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名
要介護3	7 名	要介護4	3 名
要介護5	3 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.6 歳	最低 75 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 富士たちばなクリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

クリニック、老人保健施設、通所施設などによる集合的施設の中で運営されているグループホーム(3ユニット)である。法人として、事業所運営に資する各種委員会を設置し機能させており、スタッフ全員が参加している。介護実務の職場内研修を毎月1~2回のペースで実施し、ケア能力の向上に成果を修めている。スタッフによる入居者に対するケアプランの担当制であり、プランのケース記録にキーワードを記入する工夫をして、カンファレンスに報告や意見を出して介護計画に反映させている。また、地域の防災訓練や老人保健施設のボランティアを受け入れたレクリエーションに入居者を参加させるなど意欲的な支援をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題については、「玄関や出入口にブザーやアラームを設置して安全確保を図り、施錠を常態化させない」「栄養バランスやカロリー計算をし、摂取量の把握をする」「保管や支払いの意思・能力がある方に、生活の中でのお金に触れる機会の提供する」等改善に取り組み努力している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、ユニットごとにホーム長がスタッフの意見を聞き作成し、それをもとに再度スタッフ間で話し合い理解を深めている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6、)</p> <p>運営推進会議では、日常の生活状況、災害対策、外部評価の改善課題、介護サービス向上の意見交換や提案等がされている。協議し取り組んだ実績としては、「夕食時間の5時を、30分繰り下げ5時半する」「全職員の名札の着用」に取り組み、サービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームでの苦情受付窓口と担当者を定め、外部の苦情受付機関と共に重要事項説明書に明示しているほか、玄関に意見箱と苦情申し出票を備えている。家族面会時や家族会の機会を用いて意見を伺い、苦情や意見が出された場合は、カンファレンスでスタッフ間の意見交換をし検討している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、河川敷除草、清掃活動、防災訓練等の行事に参加している。また、地域の祭りや文化祭に参加し、文化祭には入居者の作品を出品している。自治会から災害有事に車椅子2台の寄付があったり、ホームのリアカー収納保管場所として、地域の方から納屋の無償提供の申し出がある等地域の協力が得られている。また、法人の感謝祭には、自治会や地域の方々を招待するなど交流を保ち、地域の一員として努力している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安定した自由な環境を提供し、人としての尊厳を保ちながらその人らしく生活できるホーム」を理念として掲げ、実現を目指している。しかし、理念の中に地域密着型サービスとしての言葉が謳われてない。	○	地域との関係性を盛り込んだ地域密着型サービスとしての理念の作成を期待したい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月1回開催するホーム長会議で、法人事務長、ホーム長、管理者は、理念の共有、実践を確認している。管理者、スタッフは、カンファレンスで理念を共有し理解を深め、実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、お祭りや文化祭に入居者と参加し、文化祭には入居者の作品を出品している。また、河川敷除草等の清掃活動や防災訓練にも参加している。事業所の感謝祭には、地域の方の参加があり交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と全職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解している。前回評価の課題である、「施錠を常態化しない」「栄養面で専門家の意見を取り入れる」「生活の中でお金に触れる機会を提供をする」等について、改善に向け取り組んでいる。		
	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、事務長、管理者、ホーム長、家族代表、自治会副会長、民生委員、市職員で構成されている。会議では、入居者の近況、サービスの状況、外部評価、災害対策等の内容についての報告を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者と相談したり、市の出前講座を法人内で開催する等努力しているが、グループホームとして市の担当者との積極的な取組みはされていない。	○	事業所の運営やサービスの向上には市との協力関係は欠かせない。今後はホーム側からも情報提供を行う等、積極的に働きかけをすることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の生活状況、健康状態、金銭管理、職員の異動などについて、家族の面会時に報告している。また、行事案内を掲載した便り「さんぽ道」と季節行事等の写真などを、定期的に家族へ届けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に、家族等の意見、不満、苦情について積極的に聞くようにし、職員間でも意見交換をし意見が言えるような雰囲気づくりに努めている。また、玄関に意見箱を設けている。家族からの意見は、カンファレンス等で内容検討し、運営に反映するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、1回に一人以上はないよう最小限にしており、異動や離職で替わる場合には、入居者へのダメージを防ぐために個々の入居者の状況に応じた引継ぎを行っている。全職員が名札を着用し、入居者の混乱を防止している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県認知症介護基礎研修や実践者研修等の外部研修は、年一回受講の機会を設け、参加者はカンファレンスで報告している。内部研修は、月1～2回、法人の老人保健施設で開催される勉強会に参加し、介護の知識や技能向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県グループホーム連絡協議会に加盟しており、グループホーム大会等に参加している。以前は、他ホームから一日体験者を受け入れたことがあるが、現在は交流体験はない。	○	法人外のグループホームの見学研修または交流研修等を行い、交流の機会を積極的につくり、サービスの質を向上させていく取組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム見学や空き室がある場合はお試し期間として1ヶ月位の仮入居をしていただき、環境や他の入居者と馴染めるか家族等とも相談し、納得を得て入居して頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らし中で、入居者から昔の話を聞いたり、家事や調理などを教えてもらうことがある。また、「一生懸命していればいいことあるよ」等、入居者からのいたわりの言葉かけがあり、共に支え合う関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向については、日々の生活の中で言葉や様子から感じとるよう努めている。また、入居者に日記を書いていただき、思いや意向を読み取り、ケアに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者1～2名を対象としてケアプラン担当スタッフがおり、入居者の状況や課題を把握し、カンファレンスで情報を共有している。カンファレンスの話し合いのもと、ホーム長が修正や生活面や身体面での重要項目を整理し、家族の要望や主治医の意見等を反映させて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月後、6ヶ月後に見直し、カンファレンスを経て介護計画を作成している。入居者の変化に対しては、その都度話し合いを持ち、見直し介護計画を作成している。しかし、介護計画の作成をしていないユニットがある。	○	急変時の変化に対応しているが、計画の見直しをしていないユニットがある。介護計画は、随時見直しをし、全員で情報を共有するよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の希望や入居者の状況に応じて、外出支援を行っている。受診の送迎や付き添いを行っているほか、医療連携体制をとり、訪問看護も受け入れ柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者・家族が納得した法人の主治医との連携を基本としているが、他の医療機関を受診する場合は情報を提供してかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期について書面で取り決めている。重度化した場合は、主治医と話し合うこととしている。また、終末期については、普段から本人に聞くようにし、主治医、家族、管理者、スタッフ等で話し合い方針を共有するようにしている。	○	随時繰り返し、家族等と話し合いそれらを記録して、関係者全員で方針を共有できることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を大切にしたい優しい言葉かけをし、入居者の誇りやプライバシーを損ねることがないように全職員で注意している。個人別の介護記録以外の記録には、個人名を残さない配慮もしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴時間など生活のパターンや好みを把握し、希望に添うようにしている。本人の希望により、俳句づくりや裁縫等得意なことや楽しみごとが出来るように、午後の時間を充て支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、季節感のある旬の食材を使用している。下拵えを手伝ってもらいながら職員と一緒に調理したり、同じテーブルで話しながら一緒に食事をしている。また、片付けが出来る方には、手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能であるが、基本的に午後を入浴時間としている。希望がある場合は、午前中も入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活暦や入居者の希望を把握する中で、利用者に洗濯や掃除、花の水やり等を担っていただいている。また、俳句づくり、塗り絵、裁縫など、得意な分野の楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の生活で、テラスに出て過ごしたり、ホーム周辺への散歩をする等、入居者の希望に添って支援している。また、定期的なドライブや外食の機会も設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や出入りにブザーやアラームを取り付けて、日中は鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。しかし、入浴時間帯は職員の対応が手薄になるので、施設している。	○	鍵をかけないですむ工夫を検討していただきたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、春と秋に避難訓練を実施している。自治会の防災訓練に職員が参加し、運営推進会議では、毎回防災の話題に触れ、地域とのコミュニケーションを続けて協力が得られるように努めている。現在、自治会合同訓練を企画中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医の指示がある入居者以外は、一日1600キロカロリーを目安とし、偏らないように主菜は肉と魚を日替わりで使用している。食事や水分の摂取状況は、記録し一日量として把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂は、ガラス窓から光が入り明るい。居間は、畳敷きの区画があり、随所に季節の花や入居者の手作りの作品が飾られ、窓辺には椅子を置く等の工夫も見られ居心地のよい環境が作られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭からの継続をモットーに、タンスや衣装ケース・仏壇等、入居者の好みや馴染みの物が置かれている。それぞれに日頃の手作りの作品や写真、花などが飾られ居心地よく過ごせる工夫をしている。		